

米倉教公の週間為替市場見通し

8/7 日週号

ドル/円予想レンジ 109.30 - 112.20 円

『今秋は米インフレ指標に注目が集まる!』

■今週の市場動向：ドル/円は迷い十字線！

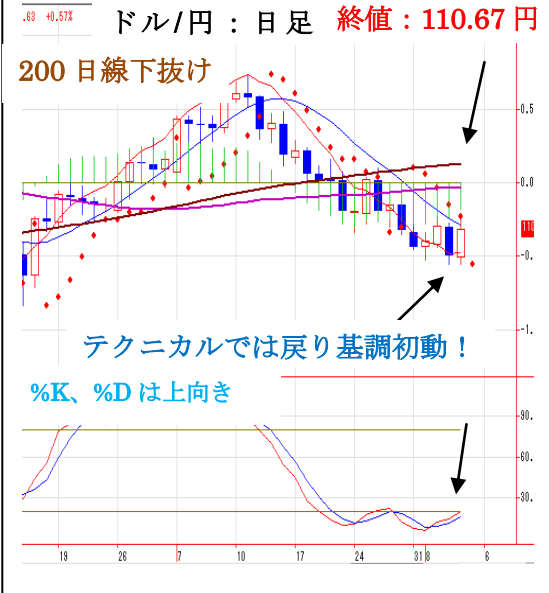
今週のドル/円週足では、迷い線となるほぼ十字線での終了となった。週明けは、前週末の北朝鮮による大陸弾道弾ミサイル発射の影響を引きずり上値の重い始まりだった。また、トランプ米大統領がスカラムッチ広報部長を解任したこともドル売りを後押しした。8月1日は、6月 PCE コアデフレータや米7月 ISM 製造業景況指数が弱く、ドル売りが加速したが本邦長期資金などの買いで下値が支えられた。2日は、米長期金利の上昇を受け 110.98 円まで持ち直したが、NY ダウの下落を受けて一転下落した。ただ下値では本邦長期資金の買いも根強かった。3日は、一時 110.80 円台まで反発したが、米7月 ISM 非製造業景況指数が予想を下回るとドル売りが強まった。さらに、『モラー特別警察官はロシア問題調査で大陪審を設置する』との報道もドル売りにつながった。4日は、一時 109.84 円まで下落したものの、米7月雇用統計がポジティブサプライズとなる良好な結果となったことを受け 111.05 円まで上げたが、111 円台の上値も重く 110 円台半ば近辺で終了した。

■来週の注目点：米インフレ指標に注目集まる！

来週の注目点は、前月にイエレン FRB 議長が低インフレに懸念を示したことをきっかけに追加利上げ観測が後退している。10日の7月生産者物価指数 (PPI) と 11日の消費者物価指数 (CPI) が注目される。7月 PPI 予想は前年比+2.3% (6月+2.0%)、コア指数も前年比+2.1% (6月+1.8%) と6月から上昇する見込み。また、7月 CPI も前年比+1.8% (6月+1.6%)、コア CPI も前年比+1.7% (6月+1.7%) と6月と同水準を維持するとの見込みとなっている。インフレ指標が予想通りならば、年内の1回の利上げや9月 FOMC 会合での QE 縮小を発表する可能性が高まり、ドルを下支えする要因となる。また、米 FRB 要人による講演では、良好な結果となった雇用統計を受け、資産縮小や次回利上げ時期が焦点となる。上値目途は、7月28日高値の 111.33 円、27日高値の 111.71 円、26日高値の 112.20 円、下値目途は、260日線の 109.99 円、8月4日安値の 109.80 円、6月15日安値 109.27 円となる。

■テクニカル的な見解：テクニカル的にはドル戻り基調の初動！

シカゴ IMM 投機筋の8月1日付け対米ドルの差し引き持ち高は、円は前週の▲121,489 から▲112,196 へと売り持ち高は前週から減少した。パラボリック (パラメータ: 0.08、0.3) では、8月4日から買い転換した。7日の SAR は 109.80 円まで下落すると売り転換となる。MACD (パラメータ: 12、26、9) では、デッドクロスが継続 MACD は横向きに。ストキャスティクス・スロー (パラメータ: 14、3、3、20、80) では、%K: 20.21、%D: 15.84 でゴールデンクロスしやや上向き。75日線 (紫線) と 200日線 (茶線) のサポートラインを下抜け。ロウソク足は、前日ロウソク足に対して『包み線』となり次のロウソク足の動きに注意。テクニカル的には、上昇基調となる初動を示している。週末に『はらみ線』となっているので、週明けのロウソク足で上抜けするのか、それとも下抜けするのかが重要ポイントとなる。



★前週の気になる出来事

早くもマクロン仏大統領の支持率は急低下している。5月に国民から圧倒的に支持され仏大統領になったものの、6月の支持率 64%から7月には 54%と急低下した。さらに3日公表された調査会社ユーガブの世論調査によると 36%まで落ち込んでいる。労働改革や議員倫理法を巡る議会での激論に加え、軍との対立や住宅補助削減などが響いている。就任後すぐに支持率が低下したのは、1995年に就任したシラク大統領以来となる。ポピュリズムが沈静化したと思われたが、再び欧州内がバタつく可能性も出てきた。

商号：株式会社フジトミ

金融商品取引業者：関東財務局長(金商)第 1614 号

商品先物取引業者：農林水産省指令 28 食産第 3988 号,経済産業省 20161108 商第 10 号

加入協会：日本証券業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人金融先物取引業協会、

■くりっく 365 の売買手数料は 1 枚当たり最大でインターネットスタンダードコースが片道 0 円 (税込)、インターネットプレミアムコースが片道 648 円 (税込)、コンサルタント取引 (対面取引) コース及びコンサルタント取引 (対面取引) オンライン併用コースが片道 1,080 円 (税込) です。

■くりっく 365 における証拠金の額は、株式会社東京金融取引所が定める為替証拠金基準額で、原則週次で見直されます。その額は通貨ペアによって異なり、個人のお客様の場合最大で約 25 倍のお取引が可能です。

【くりっく 365－為替証拠金基準額の算出方法】

金融先物取引所が定める為替証拠金基準額は以下の計算式に基づき、算出致します。

計算式：為替証拠金基準額＝取引単位 (元本金額) ×4%× (5 取引日の為替清算価格平均値)

■「くりっく 365」には、以下のリスクがあります。

【価格変動リスク】

くりっく 365 は、取引する通貨の価格の変動に伴い差損が生じる場合があります、元本や収益が保証されるものではありません。建玉を維持するために追加で証拠金を差し入れる必要が生ずる場合があります。また、差入証拠金以上の損失が生ずる場合があります。

【レバレッジリスク】

くりっく 365 は、取引の額が預託された証拠金に比して大きくなるため、価格変動リスクその他のリスクがその比率に応じて増幅されます。レバレッジにより、その取引について必要となる証拠金の最大 25 倍までのお取引を行うことができます。

【信用リスク】

当社は、東京金融取引所を相手方とした「清算制度」に参加しており、お客様の証拠金は、全額取引所が区分管理しているため、原則として全て保全されています。しかし、当社の信用状況の変化等により支払いが滞ったり、破綻した場合には、返還手続きが完了するまでの間に時間がかかったり、その他不測の損失を被る可能性があります。

【システム障害リスク】

当社及び東京金融取引所のシステム、又はお客様、インターネット業者、東京金融取引所の間を結ぶ通信回線等に障害が発生した場合には、相場情報等の配信、発注・執行等が遅延したり、不可能になることがあり、その結果、不測の損失が発生する可能性があります。

【税制・法律等の変更リスク】

税制・法律又はその解釈等が将来変更され、実質的に不利益な影響を受ける可能性があります。

【金利変動リスク】

取引対象である通貨の金利が変動すること等により、保有するポジションのスワップポイントの受取額が減少、又は支払額が増加する可能性があります。ポジションを構成する2国間の金利水準が逆転した場合等には、それまでスワップポイントを受け取っていたポジションで支払いが発生する可能性もあります。また、一部の通貨においては、外国為替市場における当該通貨の需給関係等の影響を受けて、金利変動によらずにスワップポイントの増減や支払いの逆転が生じたり、場合によっては、金利の高い方の通貨の買いポジションでスワップポイントの支払いが生じる可能性があります。

【流動性リスク】

くりっく 365 で提示する為替レートには価格差（スプレッド）があります。くりっく 365 では、マーケットメイカーが買呼値及び売呼値を提示し、それに対してお客様が注文を発注して取引が成立する方式を取っています。状況（天変地異、戦争、政変あるいは為替相場の激変等）によって、マーケットメイカーによる買呼値や売呼値の安定的、連続的な提示が不可能または困難となることがあり、その結果、想定する価格で取引ができないなど、お客様にとって不測の損失が生じる可能性があります。また、一部の通貨において母国市場等の休業の場合には臨時に休場することがあります。更に、当該国の為替政策・規制による他通貨との交換停止や外国為替市場の閉鎖の措置がなされるなどの特殊な状況が生じた場合には、特定の通貨ペアの取引が不能となる可能性もあります。なお、平常時においても流動性の低い通貨の取引を行う場合には、希望する価格での取引ができないなどの不利益を被る可能性があります。

【コンバージョンリスク】

クロスカレンシー取引においては、決済が当該通貨ではなく円貨でなされることから、決済時に当該通貨の為替リスクの他に円との為替リスクがあります。

【ロスカットのリスク】

相場の変動により、有効比率が当社の定める基準以下となったことを当社が確認した場合、お客様の意思に関わらず、当社はおお客様の全ての未約定注文の取消及び全ての建玉の決済注文（ロスカット注文）の発注を行います。

ロスカットの場合でも、相場の急激な変動により損失の額が差し入れた証拠金の額を上回る可能性があります。

【情報リスク】

当社からご提供させていただく情報は、くりっく 365 の取引の参考としていただく資料です。その記載情報は、信頼性、正確性、完全性において保証されるものではありません。また、情報内容も予告なしに変更することもあります。

【その他】

取引所為替証拠金取引の売買は、クーリング・オフの対象とはなりません。取引所為替証拠金取引に関しましては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定の適用対象とはなりませんので、ご注意ください。

※くりっく 365 は、株式会社東京金融取引所の登録商標です。